

Ⅰ 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、市民の生活環境に対する意識や市政への要望、評価等を把握し、今後の市政運営の基礎的資料を収集することを目的とした。

2 調査の設計


- (1) 調査対象 6,000 人（新座市に居住する無作為抽出による 20 歳以上の市民）
- (2) 調査方法 郵送によるアンケート調査
- (3) 調査期間 平成 21 年 2 月 13 日～2 月 27 日

3 回収状況

- (1) 配布数 6,000 件
- (2) 回収数 3,073 件
- (3) 回収率 51.2%

4 標本抽出

対象者の抽出にあたって、市内を第 3 次新座市基本構想総合振興計画で定めた地域区分による 7 地域に分類し、各地域における 20 歳以上の人口（平成 20 年 12 月 1 日現在）により、6,000 の標本を比例配分した。各地域の配布数と回収数を以下に示す。

地域区分	配布数	回収数	回収率	
	市全体	6,000	3,073	51.2%
北東地域	1,468	723	49.3%	
北西地域	692	474	68.5%	
東部地域	501	230	45.9%	
中央地域	620	316	51.0%	
西部地域	402	194	48.3%	
南部地域	1,666	782	46.9%	
南西地域	651	313	48.1%	
不 明	-	41	-	

5 標本誤差

今回の調査の回答結果から、調査対象となる母集団全体(新座市に住む 20 歳以上の男女)の比率を推定するため、単純無作為抽出の場合の標本誤差の<算出式>と<早見表>を次に示す。

統計学上の標本誤差は、比率算出の基数(サンプル数)及び回答の比率(p)によって誤差幅が異なる。今回調査の誤差幅は±1.80%以内となる。

<標本誤差算出式>

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \sqrt{\frac{N - n}{N - 1} \times \frac{p(1 - p)}{n}}$$

N = 母集団数(新座市の 20 歳以上の男女)
n = 比率算出の基数(回答サンプル数)
p = 回答の比率(0 ≤ p ≤ 1)

<誤差早見表>

回答比率(p) 標本数(n)	5%又は 95%程度	10%又は 90%程度	20%又は 80%程度	30%又は 70%程度	40%又は 60%程度	50%程度
100	±4.36%	±6.00%	±8.00%	±9.17%	±9.80%	±10.00%
200	±3.08%	±4.24%	±5.66%	±6.48%	±6.93%	±7.07%
500	±1.95%	±2.68%	±3.58%	±4.10%	±4.38%	±4.47%
1,000	±1.38%	±1.90%	±2.53%	±2.90%	±3.10%	±3.16%
3,073	±0.79%	±1.08%	±1.44%	±1.65%	±1.77%	±1.80%
5,000	±0.62%	±0.85%	±1.13%	±1.30%	±1.39%	±1.41%
10,000	±0.44%	±0.60%	±0.80%	±0.92%	±0.98%	±1.00%

上表は $\frac{N - n}{N - 1}$ 1 として算出している。なお、この表の計算式の信頼度は 95% である。

6 報告書の見方

- (1) 図表中の N とは、回答者総数のことである。
- (2) 割合は N を 100.0% として算出し、小数点以下第二位を四捨五入したため合計が 100.0% にならない場合がある。
- (3) 回答が 2 つ以上ありうる複数回答は、比率の合計は 100.0% を超える場合がある。
- (4) 統計学上 50 サンプル以下の集計(回答者数)は信憑性が低い。そのため、クロス集計については、50 サンプル以上を記述(コメント)の対象としている。
- (5) 属性別(クロス集計)の記述では、原則として全体の集計結果と比較し、特徴又は傾向が見られるものをコメントの対象としている。
- (6) 【経年変化】、【属性別の傾向】については、ページレイアウトの都合により、順番を変更している場合がある。